

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)
／野崎 窮

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

実技系の教員として以下の目標と計画がある。外部資金の獲得として制作研究のために公募展及びコンクールに積極的にエントリーする。民間企業の協力(発表場所等)を得て作品発表の計画がある。国民文化祭(徳島県開催)の一環で行われる野外彫刻展に参加を依頼され、作品発表における援助をいただく予定である。その他にもモニュメント制作のプランがあり、実現に向けプレゼンテーション用の資料を作成する予定である。

2. 点検・評価

- ・実技系の教員として外部資金の獲得ため、公募展及びコンクールに積極的にエントリーし、国際的コンクールである「瀬戸の都・高松」石彫トリエンナーレ2012」に入選を果たした。(応募総数119点、入選19点、但し、受賞しなかったため、外部資金獲得にはならなかった。)
- ・民間企業の協力(発表場所)を得て作品発表を行った(旧作による野外展示を鳴門市内の建設会社屋外で現在も実施中)。
- ・国民文化祭・とくしま2012助成事業である野外彫刻展に参加を依頼され、搬入経費等の援助をいただき作品発表を行った。
- ・モニュメント制作のプランがあり、9月末にモニュメント制作者として指名を受けた。(今後、約2年間に要して制作予定)

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

野崎窮研究室のWebページを2006年に立ち上げ、毎年ことあるごとに更新してきた。受験生が大学選びの参考となるよう、具体的に修了制作作品の写真を載せるなどしているが、さらに充実した内容にしていく。作品発表の折の図録や新聞に取り上げられたときなど、できるだけ本コース及び本分野の宣伝になるよう努めたい。一方、他の大学関係者に会うような機会があればもちろん広報活動を行う。

2. 点検・評価

- ・野崎窮研究室のWebページを最新の状況に更新してきた。
- ・東京への出張(全国高等学校文化連盟基本問題検討委員として会議出席)の折、和光大学と横浜美術大学を訪問、教員等と面談をし、広報活動を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・特に本年度から担当する学部の授業である「彫刻Ⅰ」、「彫刻特別演習」の授業内容の確かな構築に力をそそぐ。とりわけ導入部に参考作品を提示したりすることで魅力ある授業にする。
- ・各学生の進路に応じたきめ細やかで親身な対応を心がける。その際、言葉遣い等の社会人としての礼儀を指導する。
- ・ゼミにおいて各学生のプレゼンテーション能力の向上を図る。またコンクール等へ積極的にエントリーするよう促す。

2. 点検・評価

- ・学部の授業である「彫刻特別演習」の授業内容の充実を図るため参考作品を制作し、導入に提示した。また、「彫刻Ⅰ」において作業の段取りが一目で理解できるよう掲示物を作成した。
- ・個展、グループ展、コンクール、彫刻シンポジウムなどの案内をその都度、学生に行った。因みに、今夏、ゼミ生が参加した彫刻シンポジウムを訪問し、アドバイスを行うなど、きめ細やかで親身な対応を心がけた。またコンクール等へ積極的にエントリーするようアドバイスを行った。その成果としてゼミ生の一人が「県展」において奨励賞を受賞した。
- ・ゼミにおいて各学生のプレゼンテーション能力が向上するよう、適宜、発問などを行った。また、制作の参考となる資料をその都度紹介した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ・例年通り、彫刻コンクール及び公募展に積極的に応募する。
- ・全国的なグループ展、地域等のグループ展などに積極的に参加する。
- ・制作学、教材研究に関する資料収集をし、論文作成の準備をする。

2. 点検・評価

- ・例年通り、彫刻コンクール(公募展)に積極的に応募した。また、全国的なグループ展、地域等のグループ展などに積極的に参加した。(具体的にはⅠ-1で述べたので割愛させていただいたが、その他にも三重県伊賀市におけるグループ展に参加した。また、徳島県美術家協会・彫刻部会展に委嘱出品をした。)
- ・帰省(埼玉県)および出張の折など制作学、教材研究に関する資料収集をし、論文作成の準備をした。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・大学院学校教育研究科教務委員会委員及び地域連携委員会委員としてその役割を誠実に果たす。
- ・大学院定員充足に向けた本コースの取り組みや、本コースの新体制における基盤づくりに積極的に関わる。

2. 点検・評価

- ・大学院学校教育研究科教務委員会委員(大学院生による授業評価専門部会委員)及び地域連携委員会委員(教員養成・研修部会委員及び第36回教育・文化フォーラムの司会者)としてその役割を誠実に果たした。
- ・本コースの新体制における基盤づくりに積極的に関わっている。特に平成25年度退任される武市教員の授業及び教職キャリア支援センターにおける仕事の引き継ぎや統合・整理といった観点からコースに貢献した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・附属学校で行われる教育研究会に積極的に参加する。
- ・例年通り, 本学公開講座「デッサン教室」の講師を務め, 地域の文化に貢献する。

2. 点検・評価

- ・附属小・中学校で行われた教育研究会に積極的に参加した。
- ・例年通り, 本学公開講座「デッサン教室」の講師を務め, 地域の文化に貢献した。
- ・公益社団法人全国高等学校文化連盟における基本問題検討委員会委員に委嘱され、本連盟における事業内容等の精査行い、アドバイスなどを当委員として行った。(平成24年6月15日～平成26年5月7日)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ・全国高等学校文化連盟における基本問題検討委員会に委嘱され、視察や会議等でその責務を果たしていることは、間接的に本学の広報になっており、貢献していると考えます。